

プラチナ森林産業イニシアティブ

森林資源の多面的・循環的フル活用による
脱炭素化、経済安全保障強化、経済構造改革、地方創生及び森林文化の醸成

企画説明書

2022年10月

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

1. プラチナ森林産業イニシアティブへのお誘い

プラチナ構想ネットワークは、「地球が持続し、豊かで、すべての人の自己実現を可能にする社会」をプラチナ社会と定義し、その実現を目指しています。地球と人類を視野に、日本に思いを致し、先見性・全体性・具体性において、優れた活動を行っていると自負しています。

その活動の一環として、日本が豊富に有する森林資源に着目し、その多面的・循環的フル活用による脱炭素化、経済安全保障強化、経済構造改革、地方創生及び森林文化の醸成の同時実現を目指す「プラチナ森林産業イニシアティブ」を立ち上げます。

国土の3分の2以上を占める森林は、日本の貴重な財産です。森林は、国土保全・水源涵養に加え、自然と人間の共生、バイオマスの循環生産、再生可能エネルギーの生産、CO₂固定の場となります。木質バイオマスは、材木や紙だけでなく、プラスチックなどの化学工業の物質（原料）としても注目されています。熱や電気などのエネルギー（燃料）資源でもあります。広大な森林空間で再エネの多面的展開も可能です。

特に、急速に注目を集めている「バイオマス化学」や「木造都市（非住宅の木造化）」は、構造改革のトリガーになりえます。プラチナ森林産業イニシアティブは、川上（再生林業）から川中（製材等木質分画業）を経て川下（木造都市・バイオマス化学・製紙・エネルギー）に至る「森林産業バリューチェーン」を包括的に捉え、革新的な構造改革の実現を目指します。

こうした活動は、日本の脱炭素に向けた社会変革（GX＝グリーントランスフォーメーション）の推進に大きく貢献すると確信しています。さらに、得られた知見・技術等を活用して世界をリードすることで、持続可能な地球と尊敬される日本を創っていきましょう。主旨をご理解いただき、多くの会員の皆様がイニシアティブに参加いただくことをお待ちしております。



2022年10月

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク
会長 小宮山 宏

A handwritten signature in black ink, reading '小宮山 宏' (Onoyama Hiroshi).

2. 「森林産業」とは

「森林産業」は、川上（再生林業）から川中（製材等木質分画業）を経て川下（木造都市・バイオマス化学・製紙・エネルギー）に至る「森林産業バリューチェーン」を包括的に捉えます。森林産業の構造改革を促すトリガーとして、以下の3つの領域に注目します。

注目領域1：新たな需要としての「バイオマス化学」

- ◇ 再生可能エネルギーの拡大に伴って、化学工業界では原料である石油の確保が困難になることが懸念されています。
- ◇ 石油に代わる原料として、木質バイオマスと廃プラスチックからナフサを製造するプロセスが注目されています。このプロセスが実用化されれば、石油消費の縮小による脱炭素や廃プラ循環によるサーキュラーエコノミーの実現に貢献し、暮らしでのCO₂の固定で地球温暖化対策にもなります。
- ◇ 木質バイオマスの化学工業での原料化は、森林の需要に大きなインパクトを与えると推察されます。

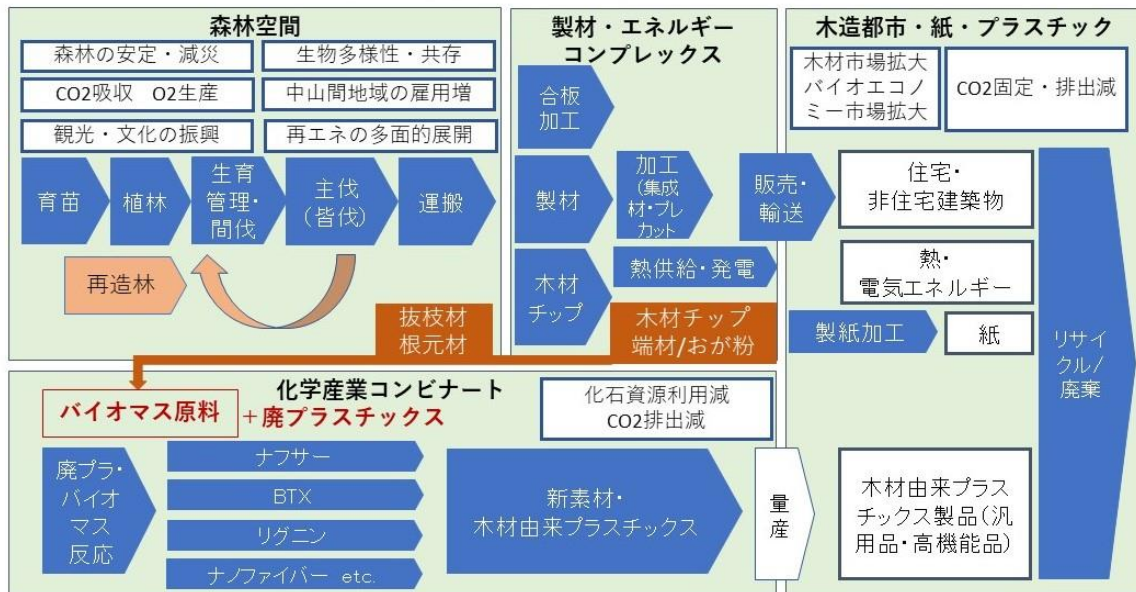
注目領域2：今後の展開が期待される「木造都市（非住宅の木造化）」

- ◇ 耐火技術、耐震技術の向上に伴い、中高層建築を含む非住宅の木造化、いわゆる「木造都市」が注目されています。
- ◇ 木造都市の実現は、木材需要の大幅な増加を通じて、森林・林業、木材産業の活性化に貢献するだけでなく、都市でのCO₂の長期固定で地球温暖化対策にもなります。
- ◇ 「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用に関する法律」も制定され、政策的にもバックアップが始まりました。

注目領域3：需要の拡大を受けた「森林・林業の改革」

- ◇ バイオマス化学や木造都市は、森林需要を一気に押し上げる可能性があり、森林・林業の改革は待ったなしです。
- ◇ 森林、原野（雑種地）、耕作放棄地等の主伐再造林を基本として改革を提案します。
- ◇ CO₂吸収・固定で、植林後の樹木成長量の管理とCO₂吸収固定認証を検討し、CO₂排出権価値化を通じて森林・林業への新たなプレーヤーの参入を促します。
- ◇ 森林フィールドでの再エネの多面的展開も検討に値します。林地残材や製材廃材を活用した発電や熱利用に加えて、フィールドの一部での太陽光、風力発電、揚水式発電に充てる土地利用も検討します。

森林産業のバリューチェーン



出所：一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

3. 基本方針

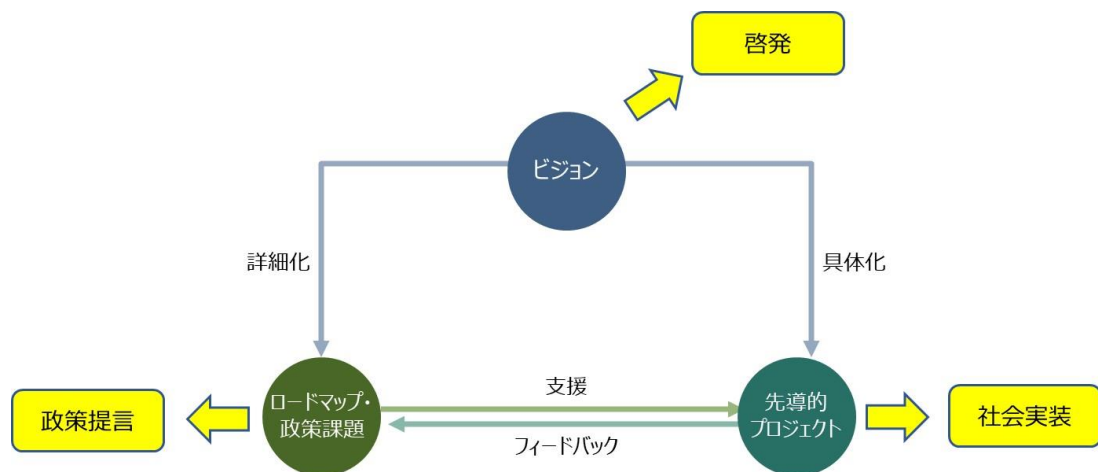
本イニシアティブでの活動にあたり、以下を基本方針とします。

- ◇ 森林文化の醸成を視野に、**革新的な森林産業の土台を形成**する。
- ◇ メンバーは**プラチナ構想ネットワーク会員**を中心に構成する。
- ◇ 将来的に競合する主体も参加する **precompetitive な活動**とする。
- ◇ 大規模で複雑な課題に、**High Impact Coalition** = 「影響力ある者の連携」を形成して臨む。すなわち、ミッション意識の高い参加者が、緩やかな規則のもとで、相互信頼を重視し、信頼醸成に応じて事業を進め、参加者各々の状況に応じてコミットする。

4. 活動の成果

本活動で得られる成果は、以下の3点です。

- ◇ 我が国における森林産業全体のあるべき姿を「ビジョン」としてとりまとめ、啓発に努める。
- ◇ ビジョンの実現戦略（ロードマップ）と政策課題を「政策提言」としてとりまとめる。
- ◇ ビジョンの実現に向けた全国各地の「先導的な取り組み」を加速する。



5. 活動内容（成果イメージ）

（1）プラチナ森林産業ビジョンの構築（調査活動＋メンバーからのコメント）

- ◇ 脱炭素化、経済安全保障、経済構造改革、地方創生及び森林文化の醸成等のための森林産業のあるべき姿（＝森林をフル活用するバリューチェーン）と数値目標をビジョンとして取りまとめる。
- ◇ 最終目標を2050年として年次の数値目標を設定し、その実現に向けた戦略を検討し、森林産業ビジョンの啓発に努める。

<主な項目>

① 数値目標フレーム

- 森林資源活用量（2019年：32百万m³/年→2030年、2040年、2050年）
 - ✓ 木材（住宅・非住宅）、燃料材（バイオエネルギー）、製紙、ケミカル資源等
- 森林資源量（年次推移）
 - ✓ 伐採量、再造林、成長量→年次森林資源量
- CO2削減・吸収効果
 - ✓ 森林（吸収）、製材・物流、建築/住宅・非住宅、化学関連、製紙、エネルギー等
- 石油の利用（輸入）削減量
 - ✓ 2020年：化学製品製造のための石油輸入量○t/年→2050年：○t/年

- ✓ バイオ資源・石油・廃プラの利用量
- 国内産業効果
 - ✓ 林業、製材業、エネルギー関連産業生産額 など
- 輸出入効果
 - ✓ 石油、木材、鉄、コンクリート（原料含む）等の輸出入量
- フィージビリティスタディ
 - ✓ 目標実現に向けた需給バランス、コストバランス、技術等を検証

② 目標実現のため戦略

- バイオマス原料による化学工業改革
 - ✓ コンビナートの現状・課題と化学産業の基本プロセス改革
 - ✓ 森林バイオマス・廃プラスチックの原料化
 - ✓ 各種プロセスの比較・改善（Licella、Mura、Neste、Anellotech など）
 - ✓ 2050 年をターゲットとした脱炭素化ビジョン
- 木造都市の進展
 - ✓ 中高層建築物の木造化、非住宅の木造化
 - ✓ 木材建築物の廃棄物リサイクル
- 森林・林業の改革
 - ✓ 森林、原野（雑種地）、耕作放棄地等の主伐再造林
 - ✓ 森林資源フル活用（再エネ事業等との併給）
 - ✓ 林業の効率化（機械化、林道整備等）
 - ✓ 産地近接の大規模木材コンビナートの設置
 - ✓ CO2 吸収・固定（植林後の樹木成長量の管理と CO2 吸収固定認証（CO2 排出権 価値化））
 - ✓ 再生エネルギー拠点（バイオマス発電・熱利用＋太陽光、風力、地熱、水力・揚水発電）

③ 啓発活動（（2）や（3）と連動して）

- 国への働きかけ（法整備、森林・林業基本計画改訂、規制緩和特区申請等）
- 国民への啓発（シンポジウム開催、出版、ドキュメンタリー映画制作等）
- プロジェクトの組成支援（先導的取り組みの加速）

（2）実現方策・ロードマップ・政策提言（主にステアリング及び会員活動）

- ◇ 課題の抽出とビジョンの実現方策とロードマップを作成する。
- ◇ 各種主体がなすべきことを政策提言としてとりまとめる。

① 森林産業ビジョンの実現方策と課題

- ◇ 実現方策（5W1Hを意識、時間軸を念頭におき、ロードマップとしてとりまとめる）
 - バリューチェーン構築に向けた活動、関係主体、行程、課題等の整理
 - 森林産業ビジョンの普及・啓発

- 先導的取り組みの支援・組成
- 技術開発と知財の共有化

② 政策提言（以下は例）

- 林業活性化への取り組み（森林経営管理制度の充実、民有林に対する制度設計）
- 森林フル活用に向けた取り組み
- 需要拡大に向けた取り組み
- 技術開発
- 人財育成
- 国の支援策（インフラ整備、新制度、規制緩和、補助金、技術開発支援、人財育成等）

（３）先導的取り組みの加速（会員の取り組みの後方支援）

- ◇ ビジョンの実現に関わる先導的な取り組みを抽出・整理（日本地図上でマップ化）
- ◇ 技術開発やフィージビリティスタディに関する実証事業を含む
- ◇ 先導的取り組みをネットワーク化する
- ◇ 関係主体へのアドバイスを実施する

【現時点で想定している先導的取り組み（今後、追加予定）】

- ◇ 周南
- ◇ 四国
- ◇ 会津

6. 活動体制

（１）ステアリングコミッティー（敬称略、カッコ内は共同メンバー）

- ◇ 委員長（株）トクヤマ 代表取締役社長 横田浩（+（同）中村孝）
- ◇ 東北大学卓越教授、化学工学会前会長 阿尻雅文（+ 東京大学環境安全研究センター長・教授 化学工学会担当副会長 辻佳子）
- ◇ 東京大学未来ビジョン研究センター客員教授（元農林水産事務次官）末松広行
- ◇ 会津森林活用機構(株) 取締役 小林靖尚（+（同）渡部一也）
- ◇ 隈研吾建築都市設計事務所 隈研吾（+（同）平田潤一郎）
- ◇ 日揮ホールディングス(株)執行役員 CTO 水口能宏
- ◇ (株)シェルター 代表取締役会長 木村一義
- ◇ (一社) プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山宏（+（同）鎌形太郎+（同）平石和昭）

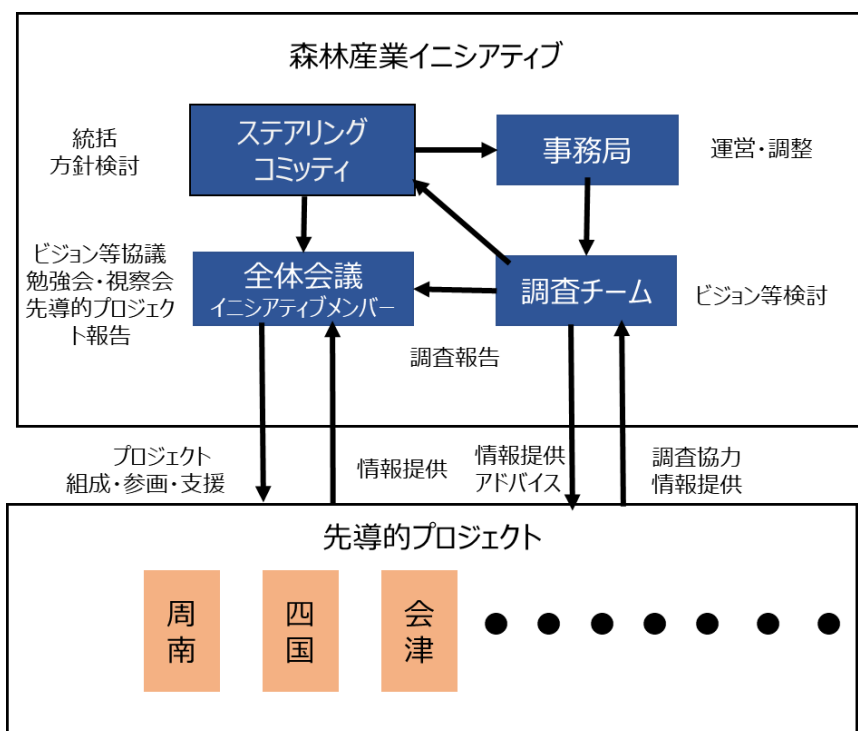
(2) 調査チーム

- ◇ 統括チーム
 - リーダー：中村（トクヤマ）
- ◇ バイオマス化学チーム
 - リーダー：阿尻（東北大学）
- ◇ 木造都市チーム
 - リーダー：木村（シェルター）
- ◇ 森林・林業チーム
 - リーダー：小林（会津森林活用機構）

※メンバー：リーダーが選定（会員からの応募も含む）

(3) 一般参加メンバー

- ◇ 全体会議への参加（講演、情報共有、ビジョン等の協議、視察）
- ◇ ビジョン作成等への協力（ノウハウや知見の提供等）
- ◇ 調査チームへの参画（調査チームリーダーによる要請や応募）
- ◇ 先導的プロジェクトの立ち上げ、参画



7. スケジュール

(1) 全体スケジュール

| | 2022年度 | | | | | 2023年度 | | 2024年度 |
|-----------------------|--------|-----|----------|----|----------|----------------------|--------------------|-----------|
| | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 上期 | 下期 | |
| ■活動内容 | | | | | | | | |
| 1.森林産業バリューチェーンのビジョン構築 | → | | | | | | | |
| 2.実現方策・ロードマップ・政策提言 | | | | | | → | | |
| 3.先導的取り組みの加速 | → | | | | | → | | - - - - - |
| ■全体会議 | ● | ● | ● | ● | ● | ● ● ● | ● ● ● | |
| | | | ビジョン中間協議 | | ビジョン最終協議 | | | |
| ■啓蒙活動 | | | | | | ● ビジョン公表 ● シンポジウム | ● 提言公表 ● シンポジウム | |
| ■先導的プロジェクト | → | | | | | → | | - - - - - |

(2) 今年度のスケジュール

- ◇ 10月19日(水) 企画説明会(横田社長挨拶+小宮山会長基調講演+主旨説明)
- ◇ 11月10日(木) 参加申込締切
- ◇ 11月 第1回全体会議(第一部:講演、第二部:方針説明)
- ◇ 12月 第2回全体会議(第一部:講演、第二部:ビジョン検討)
- ◇ 1月 第3回全体会議(第一部:講演、第二部:ビジョン検討)
- ◇ 2月 第4回全体会議(第一部:講演、第二部:ビジョン検討)
- ◇ 3月 第5回全体会議(第一部:講演、第二部:ビジョン検討)
- ◇ 4月 森林産業ビジョン公表(プレスリリース)
- ◇ 5月 森林産業ビジョン普及のためのシンポジウム開催

8. ご参加頂きたい企業・団体・個人

◇ 民間企業

- 森林産業イニシアティブで想定する事業に取り組む意向(参画可能性)がある企業及び必要に応じてビジョン作成等で調査チームに協力いただける企業
- 想定される業態・業種
 - ✓ 森林・林業に関わる企業: 林業・製材・流通、商社、バイオマスエネルギー等
 - ✓ バイオマス化学に関わる企業: 化学、石油、エネルギー、製紙、エンジニアリング等

- ✓ 木造都市に関わる企業：建設、不動産、ハウスメーカー、設計等
- ✓ その他：輸送、金融、シンクタンク、飲料メーカー等

◇ 自治体

- 森林産業イニシアティブで想定する事業を自らの地域で取り組む意向（参画可能性）がある自治体及び必要に応じてビジョン作成等で調査チームに協力いただける自治体

◇ 個人

- 森林産業イニシアティブで想定する事業に参画あるいは支援する意向がある方及び必要に応じてビジョン作成等で調査チームに協力いただける方

※プラチナ構想ネットワーク会員限定

- 森林産業イニシアティブのメンバーは、プラチナ構想ネットワークの会員限定とします。現在会員でない方はプラチナ構想ネットワークへの入会をお願いいたします。

※ビジョンや政策提言には、貴団体のお名前が掲載されます。情報収集のみでの参加は、ご遠慮いただきます。

9. 参加方法

（1）活動期間

- ◇ 2022年11月～

（2）情報の取り扱いについて

- ◇ 森林産業イニシアティブでは、森林資源のフル活用を推進するため、イニシアティブで検討した成果について積極的に外部に公表し、社会的関心を高め、ビジョンの啓発に努めます。
- ◇ ただし、各参加団体が保有し外部に公表していない情報については、取り扱いに十分に注意するとともに当該参加団体が許可した部分のみ参加者限定とします。

（3）参加申し込み

◇ プラチナ構想ネットワーク会員

- 添付の申込用紙に必要事項を記載の上、事務局まで提出してください。プラチナ構想ネットワークホームページにも森林産業イニシアティブの案内を掲載しています。不明点等は問合せ窓口にご連絡ください。

◇ 会員以外の企業・団体・個人の皆様

- プラチナ構想ネットワークへの入会をご検討ください。必要に応じ説明に伺います。その上で森林産業イニシアティブへの申し込みをお願いします。

※不明点等は問合せ窓口にご連絡ください。

【お問合せ先】

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

担当：鎌形、松本、平石、大村

e-mail：jimuinfo@platinum-network.jp

T E L 03-6858-3546 / F A X 03-5204-9563

〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 東急キャピトルタワー9F